

博物館研究班「本山コレクション貝塚研究班」 研究成果報告（2022年度）

井上主税 関西大学文学部教授（研究代表者）

山下大輔 関西大学博物館学芸員

1. はじめに

「本山コレクション貝塚研究班」では、これまで断片的な紹介のみであった本山コレクションの貝塚出土資料とそれに関連する縄文時代の資料について、個体識別や接合・復元作業など、より詳細な整理作業を実施するとともに、他機関が所蔵する関連資料と比較検討することで当館所蔵の資料について今日的な評価を与え、その成果を公表することを目的とする。2020年10月より始動し、研究活動の最終年度となる2023年度にそれまでの研究成果を報告することとなっている。なお、2021年度まで学芸員として本研究班に参画していた山口卓也氏は、関西大学博物館の退職に伴い、博物館運営委員会での審議・了承を得た後、本年度より非常勤研究員として引き続き調査・研究にあたっている。

2. 2022年度の研究成果

本研究班は、2020年10月から研究活動を開始し、これまで岡山県津雲貝塚を中心に各地の貝塚出土とされる資料の全体的な把握を進めるとともに、出土資料の種別ごとの出土量（点数）を確認するなど、継続的な資料整理を実施している。2022年度も個体識別・接合作業によって細別時期の標式となりえるような土器資料を抽出し、展示に向けた復元・補強を行った。特に津雲貝塚出土資料の整理及び調査を進め、これまでは土器資料を主な対象としてきたが、今年度は石器や貝製品等も対象とし、点数確認や主な資料の図化を行った。また、関連資料の比較検討のため、茨城県稲敷市に所在する貝塚を中心に関連遺跡の現地踏査および出土資料の調査を行った。

（1）津雲貝塚出土資料

津雲貝塚出土資料に関しては、前年度の作業から引き続き、土器資料の接合関係の確認を行ったが、破片資料数の割には接合できる資料は多くない。そのため、本年度は主に石器資料と骨角器、貝製品について資料数の点数確認と資料の図化を行っている。

（2）北関東地方出土関連資料

前年度に引き続き、茨城県稲敷市に所在する福田貝塚と椎塚貝塚出土資料の確認作業を行った。特に充実している椎塚貝塚出土土器資料について、可能な限り個体識別を試み、型式ごとの出土量の把握を行った。また、接合が可能な資料については、接合・復元を実施している。

さらに、12月に椎塚貝塚及び福田貝塚の現地踏査を実施し、現況確認を行った。これら二つの



写真1 茨城県所在の本山コレクション及び貝塚関連遺跡
 (上から1段目：稲敷市椎塚貝塚 2段目：稲敷市福田貝塚
 3段目：稲敷市広畑貝塚 4段目：稲敷郡美浦村陸平貝塚)

貝塚以外にも、茨城県霞ヶ浦の南部に点在する貝塚群の現地踏査を実施し、当該資料を収蔵・展示している稲敷市歴史民俗資料館や美浦村文化財センターでの調査・見学を行っている。

(3) 熊本県出土関連資料

本研究班では、貝塚出土資料ではないものが多いものの、本研究に関連する縄文時代遺跡出土資料として、熊本県内遺跡出土資料の整理・調査を継続的に行っている。本山彦一の故郷でもある熊本県の遺跡に関連する資料は、本山コレクションの縄文時代資料の中核を成すといっても過言ではない。資料数も多い上に、縄文土器型式の標式遺跡である御領貝塚や三万田遺跡等の資料も含まれている。これらの資料の多くが、地元の考古学者であった坂本経堯氏から寄贈を受けたものであり、坂本氏の著書『肥後上代文化資料集成』の中には、本山コレクションに含まれる資料の図が確認できる。このようなことから、研究成果の一つとして、現在関西大学博物館常設展示室にて、坂本氏寄贈の熊本県出土資料の一部を実測図と共に展示している。



写真2 本山コレクションの熊本県関連資料の展示状況

3. 今後の予定

2020年度から4カ年にわたる資料整理・研究活動の成果として、2023年冬に展示会を開催する。標式的な土器資料を中心に、石器や貝輪、骨角器など本山コレクションに含まれる貝塚出土資料取り上げ、広く公開することとしたい。そのため、資料群の整理・研究を継続的に行うと共に、展示会の具体的な内容と構成、展示資料の選別等準備作業を計画的に進めていく予定である。

4. おわりに

約2万点を数える本山コレクションは、2011年に一括して国の登録有形文化財に登録されたが、その中の多くが縄文時代に帰属する資料である。本山コレクションの中核を成すといえるこれらの縄文時代資料の中でも、各地の貝塚から出土した資料は、学史的にみても重要な位置を占めるといえる。また、当コレクションに含まれる資料の中には、残念ながら出土遺跡やその来歴が不明なものも含まれているが、貝塚関連資料については、津雲貝塚や三陸の貝塚群など、本山彦一が実際に発掘調査や踏査に関わることで入手した資料が多い。正式な発掘調査報告書等、当時の発掘の様子が分かる資料が存在しないものもあるが、個別遺物としての評価のみならず、遺跡と

そこから出土した遺物として一体的に評価が可能となる点で、当コレクションの中でも考古学的資料価値が高い資料群であるといえる。このような資料群を今日的に評価し、その重要性を顕彰するため、2023年冬季に展示会を開催しこれまでの研究成果を報告することとなっている。

(文責：1・3・4章 井上・山下、2章 山下)